

## 段葛

段葛は八幡宮の参道に沿って二ノ鳥居から三ノ鳥居まで続く、周りより一段高くなった全長約450メートルの歩道です。沿道に植えられた桜は通常3月下旬から4月中旬にかけて花を咲かせます。桜の下にはその後に見ごろを迎えるツツジが植えられ、八幡宮の氏子崇敬者が奉納した石灯籠も並んでいます。入り口を守るのは一対の狛犬です。東側の狛犬は「あ」（サンスクリット語の最初の音）と言っているように口を開け、もう西側の狛犬は「うん」（サンスクリットの最後の音）と言っているように口をほとんど閉じています。このように始まりと終わりを意味するこの二文字を組み合わせることで、万物を象徴しています。

段葛は1182年、初代鎌倉幕府将軍であり鶴岡八幡宮を創建した源頼朝（1147-1199）によって造られました。頼朝は海から八幡宮へと続く参道を作るよう命じました。このとき頼朝の妻北条政子（1156-1225）が身ごもっており、この造営は安産祈願として行われました。段葛は二人の息子で後の二代目鎌倉幕府将軍、頼家（1182-1204）の誕生に合わせて完成しました。

段葛の設計には防衛的側面があったとも言われています。かつては両側に堀があり、幅は今も八幡宮の境内に近づくにつれ狭まっている遠近法により海からの距離が長く見えるように作られて、敵を返り討ちにしやすいなっています。1878年に横須賀線の線路を新たに通すため行われた一ノ鳥居と二ノ鳥居の間の部分の撤去を含め、段葛には数百年のあいだに時代により改変が加えられました。2016年の大規模改修では桜の植え替え、老朽化した石積みの修復、石灯籠の入れ替えなどが行われています。